

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	扇町公園整備事業	会計	一般会計	事業No.	594	施策順No.	46-011	
		事業種別	政策・その他	予算科目	8-4-5-11-2			
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	土木課			
施策	46 活気ある街づくりの推進			事業期間	開始	21	終了	24

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市民、来街者。							A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	市民数:人		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
	意図	市街地への来街者を増やす (飯田市のシンボルでもあるリンゴ並木と隣接する施設であり、市街地の集客施設の一つとして重要である。施設改修により、小規模でありながらも入園者が増加傾向にある動物園の魅力をもっと高め、市内外からの来園者を増加させることができれば、市街地活性の大きな誘因となる。)							
	対象をどう変えるか	ワークショップの実施回数			5				
		進捗率: % (当年度までの実施済額/全体事業費)			1.3	6.7	6.7	52	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	平成21年度ワークショップによる動物園改修の基本方針が決定したことから、平成23年度改修工事に向け、平成22年度には実施設計を行った。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>○りんご並木との連続性を高め魅力ある施設(施設、管理棟、園路等)とし、市民・観光客来街の誘因を図る。 ○動物園の獣舎整備やイベントゾーンを拡充し、南信地方唯一の動物園として社会需要に応えられる施設とする。 ○まち交(飯田市市街地地区、H21~H24)の基幹事業として位置付け、H21は基本計画策定(ワークショップを含む)し、H22は実施設計(改修工程)をまとめ、H24までを事業期間として取り組む。H25以降は、国の補助事業の状況を見ながら検討する。</p>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 基本計画・基本設計作成(21→22繰越明許) 2 実施設計作成	1 基本計画業務 2 実施設計業務	1 1式 2 1式
	23年度実施計画	1 ふれあいゾーン・イベントホールの整備 2 ペンギン舎の整備 3 実施設計作成	1 施設整備 2 施設整備 3 実施設計業務

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	7,094	7,094	36,000	(国)社会資本整備総合交付金(交付対象事業全体で4.5/10) (地)合併特例(充当率95%) (そ)繰越金 21→22繰越明許費 4,500千円
	特定財源内訳、補足事項	起債	5,900	5,900	43,450	
		その他	2,475	2,475		
		一般財源	440	429	2,250	
	計(A)	15,909	15,898	81,700		
	正規職員所要時間			300		
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			1,073			
トータルコスト A+B			16,971			

4 事業に対する市民や議会の意見

・委託運営によりイベント等が活発に行われ、委託業者の企画、対応に対する一定の評価は得ている。また、身近で生態など分かりやすい動物園として来園数も増加している。しかし反面、老朽化した施設への不満の声も増加している。
 ・近年の傾向としては、より自然に近い動物本来の行動が見られる園舎の改修やレイアウトが求められている。また、動物からの病原菌等の人への感染が社会問題でもあり、飼育動物の生息環境の改善も課題である。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	中心市街地に人や物が集まり活気がある。	施策の成果指標又はムトス指標	まちなかの6スポットの1日あたりの延べ歩行者数(本町1、銀座3、りんご並木、知久町1、駅前、中央通り) ⁴⁾
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	中心市街地活性化基本計画に基づき実施している。中心市街地の一部でもある老朽化した動物園を改修することは、活気ある街づくりの推進につながる。		
	後期に向けた課題	人気が予想される「ふれあいゾーン」や「イベントゾーン」、「ペンギン舎」を中心に改修することで、来園者増が期待される。平成24年度までの事業ではあるが、補助事業の動向を見ながら未整備部分の改修をすすめることで、中心市街地の更なる活性化につながる。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	動物園改修を含め中心市街地活性化基本計画に基づき事業を実施することは、中心市街地を一つの動線として結ぶことができ、活気ある街づくりの推進につながり成果が向上する。		
	後期に向けた課題	動物園の改修後は桜並木を整備することで、りんご並木からの一つの長い動線として結ぶことができ、「人々の交流によるにぎわいの回復」の実現を図る。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	調理室で飼育員の動線を観察し、無駄を省き使いやすい設計とした。		
	後期に向けた課題	工事に伴い事務所や獣舎の仮設が必要となる。仮設期間や回数が少なくする必要がある。また、指定管理者の協力が不可欠である。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市が管理する動物園である。市が整備することが適切であり、受益者の負担は求めない。		
	後期に向けた課題	市が管理する動物園であり、今後も市が整備することが適切である。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	市が果たす役割は大きい。動物園改修計画時には地域住民などが参加し、意見を反映しながら作成した。また、ワークショップやパブリックコメントを実施し、市民の意見も反映できるようにした。		
	後期に向けた課題	地域住民や来園者の意見を反映しながら整備を進め、指定管理者と協力しながらより良い動物園を構築していく必要がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	平成22年度までは計画等が主であった。ワークショップ等の意見を集約した結果、動物園の改修は中心市街地の活性化につながる計画内容であった。		
	後期に向けた課題	平成24年度までの事業であり、未整備部分が課題となる。補助事業の動向を見ながら動物園の改修を進めることが中心市街地の更なる活性化につながる。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	--	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------